

## 1 PARK CHALLENGE @ MIKASA

### 市長

横須賀市は、三笠公園の新たな活用の可能性を探るためイベント企画を募集します。

近年、全国的にも注目されている手法の1つであり、公共施設を暫定的に使用する際に用いられることが多いトライアルサウンディングという手法を採用し、今回、本市初の試みとして、「パーク チャレンジ ミカサ」を実施します。

具体的には、三笠公園につきましては、横須賀中央地区に位置し、本市で、唯一「日本の都市公園100選」にも選定されるなど、本市を代表する公園でございます。

毎年実施しているカレーフェスティバルの際には市内外から数万人規模のお客様にお越しいただき非常に賑わっている状況ではありますが、一方で、公園の奥側については、音楽噴水などの主要施設が配置されているにも関わらず、日常利用としてもイベント利用としても利用頻度が非常に少ない状況であるため、本市としてもリニューアルの必要性を強く感じているところでございます。

そのような中で、本市としては是非、民間事業者の自由な発想やアイデアをお聞かせいただくと同時に、実際に三笠公園を使用していただき、民間事業者ならではの視点で感じていただいた活用の課題や将来的な展望などをディスカッションさせていただくなど、民間と行政が一緒になって、公園の魅力を再発掘したいと考えています。

特に、民間事業者に期待する点としては、まずは、公園が有する規制にとらわれない形で、行政では考えつかないような、自由な発想でイベントを企画していただき、三笠公園という場所としてのポテンシャルを最大限広げて、リニューアルの検討を進めたいと考えています。

それほど三笠公園については高いポテンシャルを有し、周辺施設への波及効果も計り知れない施設と捉え、強い気持ちで「進化」させたいという想いを込めています。

そのあたりは、リニューアルのコンセプトとしても、「横須賀アーバンカルチャーの創造・発信拠点」と設定したことにも表しております。

また、今年の4月に長井海の手公園ソレイユの丘がリニューアルオープンし、各種メディアにも積極的に取り上げていただいている効果もあり、3カ月弱の期間で来園者数30万人を突破するなど、過去にないほどの賑わいを見せております。

これは、民間事業者の持つアイデアなどを最大限に発揮したリニューアルの結果と捉えており、時代のニーズに適合した公園活用ということにおいては、改めて民官連携の重要性を強く感じているところです。

続きまして、今回のトライアルサウンディングの特徴として、本市として様々な形でバックアップさせていただき、行政としての本気度をお見せするとともに、民官連携のスタートとなるような取り組みをしてまいります。

募集に関する詳細につきましては、明日の7月25日に市ホームページにて公表いたします。

最後となりますが、トライアルサウンディング期間の約2カ月間においては、三笠公園にて常に何かしらのイベントが実施され、皆様には何度も足を運んでいただき、賑わいが生まれるような取り組みにしたいと考えています。

PARK CHALLENGE @ MIKASA について、私からの説明は以上です。

## ■質疑応答

### 記者

市長にとって、この三笠公園が秘めるポテンシャルというところを、もう少し具体的に教えてください。

また、三笠公園は奥側に人がいないというお話でしたが、将来的にはどんな場所になってほしいかをもう少し教えてください。

### 市長

横須賀はアーバンスポーツのまちであり、音楽のまちだということを前からお話をさせていただいておりました。

三笠公園のあの場所からは米軍基地が見え、若い頃、米軍基地の開放時にあの場所にいることが非常にわくわくすることでした。

すごく横須賀らしさがあるというか、我々古い時代の人間も、米軍基地が存在して、海があって、音楽が流れてくる、特別な場所だと理解しており、もう一度、そのようなわくわく感というか、その時代のことを彷彿させるような、皆さんに楽しんでいただけるイベントができる場所にしたという思いがあります。

### 記者

この噴水のエリアはあまり利用がないということでした。年間にどのくらい利用があるのでしょうか。

### 市長

噴水がオブジェ的になっており、あまり使い勝手がよくありませんでした。人が集うようなイベントも開催しづらく、また、噴水で涼をとるような感じでもなかったと思います。

昔の話になりますが、毎年、三笠公園から米海軍基地内の海で水上スキーのようなもので、ショーなどをやっていた覚えがあります。その時は、米海軍基地は開放されていなかったもので、三笠公園から毎年見ていました。

そのような記憶から、私は、若い頃、米海軍基地がそこに存在しながらも、文化を共有するというイメージを持っていました。それを鮮明に覚えています。

そして、米海軍基地の開放とあわせて、これだけ近い距離にアメリカ人がいるということを感じた場所でありました。

ですから、今の使い方はちょっと違うのではないかなと個人的に思っています。三笠公園でイベントを行えば米海軍基地からも見えるし、三笠公園からも見えます。両方で共有できるようなイベントを開ければと思っています。

### 公園活用推進担当課長

先ほど、ご質問にありました来園者数について補足いたします。

平成 27 年には 200 万人を超えておりました。平成 29 年は 170 万人、以降、令和元年までは 190 万人でしたが、コロナの影響により令和 2 年は 60 万人、令和 3 年は 80 万人でした。

令和 4 年は、180 万人になりましたが、コロナの影響を受けていない年度と比較すると全体的には減ってきていると考えています。

### 記者

スケジュールはどのようになっていますか。

### 公園活用推進担当課長

今年度にトライアルサウンディングを行い、今年度末から来年度にかけて基本設計と事業者の募集を実施する予定です。

今回は、三笠公園全体のリニューアルを目指しており、全体のリニューアルとなった場合、令和5年度、令和6年度の期間で整備を行うことを考えています。しかし、サウンディング調査の結果によっては、全体ではなく部分的なリニューアルということもあり得ます。このようにスケジュールについては、サウンディング調査により変わると思います。

### 記者

事実関係を確認させてください。

今回の件は、市は、近く、三笠公園をリニューアルしたいと考えている。そのリニューアルに向けて、社会実験として何か面白いイベントを民間事業者を実施してほしい。それにより、ニーズや課題を探るとのことだと思います。

それを踏まえて確認したいのは、今回は、そのイベント事業者を募集するということなのか、あるいはリニューアルそのものを計画しているということなのか。どちらが主体ですか。

### 市長

今回は、三笠公園を無料で自由に使っていただける事業者を募集するということです。

### 公園活用推進担当課長

トライアルサウンディングの期間は、9月中旬から11月までの2ヶ月間と考えています。

また、イベント実施が可能な日にちとしては、令和5年10月7日・8日、21日・22日、28日・29日の全6日間を考えています。

ただし、この2ヶ月間の間には既存のイベントも実施されますので、そのような既存のイベントも含めて、サウンディングをかけていきたいと考えています。

### 記者

無料でどんなイベントを実施しても構わないということでしょうか。

### 市長

その通りです。どんどん使っていただきたい。

### 記者

そして、それをみて、どんなリニューアルがふさわしいかを判断していく。

### 市長

はい。

### 記者

それを令和5年度から6年度にかけて全体を整備する。

### 市長

公園全体を整備するのか、一部を整備するのか、サウンディング調査によって方針を決定していきたいと思っています。

**記者**

これは、\*船も含めてということでしょうか。  
※広報課注：船＝三笠公園にある記念艦三笠

**市長**

船は別です。

**記者**

予算はついていますか。

**市長**

ついておりません。

**記者**

今回はコンセプトに「サードプレイスの創出・アーバンカルチャーを育む場所」とあります。市長の中ではどのように利用してもらいたい、どのようにできるといいな等、想定しているイベントはありますか。

**市長**

小規模のBMX大会や最近流行ってるパークール、スケボーやダンスのようなものです。アメリカンカルチャーっぽいものが一番似合うところだと思いますので、そういうものをサウンディングして、いろいろとトライアルしてもらえればと考えています。

**記者**

サウンディングの結果、うまくいけば、BMXやスケボー、ダンスができる施設を整備するということでしょうか。

**市長**

大きな箱物ということは考えていません。青空の中でそういうことができる施設があればと考えています。

**記者**

ダンスのための鏡を置くとか、パークールのジャンプ台をおくとか。

**市長**

それも一つだと思います。

私の中で案を持っています。サウンディングを実施して民間事業者の知見をいただいて、具体的になっていけば、そのほうが民主的だし、面白いと考えています。

**記者**

無料で公園を利用できることのほか、トライアルサウンディングだからこそ、普段はできないようなことができるなど、参加される事業者さんのメリットとなるものはあるのでしょうか。

**公園活用推進担当課長**

数は少ないのですが、無料でテントを貸し出すことを考えています。

また、例えば、奥のエリアでは音楽イベントができればいいなと考えています。

通常ですと、9月、10月は、音楽イベントは夕方の5時までとなっていますが、それを夜の7時まで延長できないかというようなことを模索していきたいと考えています。

#### 記者

先ほどお答えいただいた平成29年の来場者数の約170万人というのは暦年でしょうか。また、必ずしもコロナの影響が大きいというわけではないが、来園者数は減少傾向にあるということでもよろしいですか。

#### 公園活用推進担当課長

訂正させていただきます。

先ほど、来園者数について平成28年は190万人、令和4年は180万人とお答えいたしました。コロナの影響から回復してきたというところも含めて考えますと、来園者数はほぼ横ばいであると考えます。市内でもトップレベルの観光施設であり、コロナあけということで、数字が戻ってきているのではないかと考えています。なお、\*来園者数は1月から12月までの来園者です。

※公園活用推進担当課注：「来園者数は4月から3月までの来園者です」に訂正

#### 記者

来園者数は変わらないけど、ちょっと魅力がたりないということなのではないでしょうか。

#### 市長

そういうことなのではないでしょうか。

#### 記者

来園者数が減ってきたので、リニューアルしましょうということなのか、どちらなのではないでしょうか。

#### 市長

説明が難しいのですが、人が減ってきたからということではありません。使い勝手があまりよくないと感じていて、もっといろいろな使い方があるだろうと思ってはいました。

現状、老朽化が進んできています。三笠公園をいろいろなことに使いたいので、ただサウンディングするのではなく、民間事業者に実際に使ってもらって、よりよい方法を聞きたいということです。

#### 公園活用推進担当課長

音楽噴水が老朽化していて、音や光が出ないところが数ヶ所あります。

この噴水を全面リニューアルして、ただ新しく変えるのではなく、このまま活用ができないかということも含め、次のリニューアルに向けて何ができるかを事業者に聞きたいということが主旨です。

#### 記者

噴水を廃止するというのでしょうか。

#### 公園活用推進担当課長

噴水は今月末で運用を停止し、下の配管なども全て撤去しますが、形は残ります。池全体を工事するのではなく、池の形を残したまま音楽イベントやスケボーなどができないかと考えています。

#### 副市長

全体として三笠公園の来園者数は、どちらかというと上昇傾向です。

横ばいから上昇傾向であり、観光客が増えてきたことでポテンシャルがどんどん上がってきていると思っています。ただし、奥は、ほぼ使われておらず、さらに噴水が老朽化しています。いずれにしても、今のままで使い続けることはできません。

そこで、今の三笠公園をさらに活性化させることが目的です。特にあまり使われてないところをリニューアルしたいという狙いがあります。使われていないところは多くあり、つまりそこは民間の事業者もほとんど使っていません。

奥のエリアまで距離はありますが、そこをどうやって使い勝手をよくするか、ということをしつかりサウンディングしていきたいということです。

## 2 スマホで最寄りの避難所がすぐに見つかる！

～横須賀市 LINE 公式アカウントに防災の新機能を導入します～

### 市長

今年ももうすでに、全国各地で大雨による痛ましい被害が発生しておりますが、これから先、本格的な台風シーズンに入っております。

近年の激甚化する自然災害に対しては、迅速・的確な防災体制が求められており、昨年度には、市内 27 地点に、災害監視カメラを設置しました。

これに加えて、本日から災害への新たな備えとして、横須賀市 LINE 公式アカウントを活用したサービスを導入します

今回、新たに加えるサービスは、位置情報を LINE 上で送信するだけで、最寄りの避難所や応急給水拠点のさまざまな情報を確認することができるというものです。

特徴としては、グーグルマップと連動し、現在地から目的地までの経路や距離、時間がすぐにわかるほか、避難所などの開設状況をリアルタイムで確認することができます。

特に、避難所に関しては、ペットを連れていくことが可能かどうか一目でわかります。

なお、今回、避難所だけではなく、震災などによる大規模断水の際に、給水所となる応急給水拠点の情報も合わせて案内します。

このことは県内でも初めてのことだと聞いています。

これにより、平常時における事前準備や、災害時における迅速な避難行動につながると考えています。

なお、このサービスをご利用いただくためには、横須賀市 LINE 公式アカウントの登録が必要です。先日、九州・東北地方で起きた、大雨による被害などを目にしますと、本当に身を切られる思いです。

これから本格的な台風シーズンを迎えますが、市民のみなさんには、もしもの時は、早めに避難してもらいたいと思いますので是非とも横須賀市 LINE 公式アカウントに登録いただき、このサービスを災害の備えとして役立てていただきたいと思います。

市としても、本日の記者会見のほか、広報よこすか 8 月号では防災を特集します。

また、地域の防災訓練、町内会でのご案内等を通じて、しっかり周知していきたいと思っています。

私からは以上です。

### 広報課長

LINE の操作説明

### ■質疑応答

#### 記者

なぜ LINE の強化に踏み切ったのでしょうか。

#### 市長

踏み切ったというよりも、これは当然の帰結だと思っています。

あらゆるものをスマホで、LINE で情報提供した方がよいと考えています。

今までもコロナ等の情報提供を LINE でやってきました。

様々な機能を利用し、様々な情報を載せていきたいと思っています。

## 記者

現状、横須賀市の LINE の友だち登録者数はどのくらいですか。また、スマホでの機能が強化されていったとしても、持ってない人や使えない人もいます。そのような方への手当についてはどのようにお考えでしょうか。

## 市長

まず、LINE の友だち登録者数は、県内では横浜に次いで2番目に多い15万人です。人口に占める友だちの登録者数の割合について申し上げますと、市民の約4割が登録しており、県内で座間市、三浦市に次いで3番目に多い割合となっています。

スマホを持っていない人、使うことのできない人への手当てについてですが、私は、基本的に早く進められるものはどんどん取り組んでいこうと考えています。ただし、使い方がよくわからない方がいたら、徹底してその方々をフォローしなくてはならないとも考えています。これは職員にも指示しています。

したがって、今回の件で言えば、地域の避難訓練、町内会の寄り合いなどに職員自らが出向いて、徹底的にやり方を伝えて、広めていければと考えています。

LINE による情報入手の手段が備えられているので、それを活用することは進めていきますが、おっしゃる通り、情報入手についての格差はありますから、それは徹底して職員によってフォローしていきたいと考えています。

## 記者

基本的にはスマホを1人1台持ってねというようなイメージですか。

## 市長

時代の流れで、現在すでにスマホを持っている人が多いと思います。ただ、持ってない人に対してどうするかということも考えなくてはならないと思います。

どのように情報を伝えていったらよいのか、ということを生委員さんや地域の皆様と考えていきたい。ただ、それは二次的な話で、まずは救える人たちを救いたいということです。

## 記者

LINE 避難所検索機能は、県内でいうと珍しい事例ですか。

## 経営企画部長

LINE を活用した事例は珍しいことではありませんが、ペットが同伴可ですとか応急給水拠点、こういった情報を入れているのは県内でも、ないと認識しております。

## 市長

それ以外にリアルタイムで状況を伝えることもできるし、今後はいろいろな機能を載せられるのではないかと考えています。

## 記者

位置情報が加わったのは、新サービスなのでしょうか。

## 経営企画部長

横須賀市では初めて取り入れますが、他の自治体でも使用されています。

**記者**

どこかの事業者に委託して作ったソフトでしょうか。それとも市で制作したものでしょうか。

**広報課長**

事業者が提供している LINE の機能拡張に関する既存サービスの 1 つを導入しました。

**記者**

市内の民間事業者に委託して開発したのでしょうか。

**広報課長**

市内事業者ではありません。開発ではなく民間事業者が提供している機能を導入しました。

## ■案件以外の質疑

### 記者

ChatGPT を導入した4月から3ヶ月が経ち、深津さんも戦略アドバイザーに就任されて1ヶ月以上経ちましたが、今現在の運用状況、感じている課題感、今後取り組みたい方針についてお伺いさせていただきます。

### デジタル・ガバメント推進室長

まず、今月末に職員向けの底上げの研修を始めます。

これを、第1回、第2回、第3回と増やして行って、職員がより良い回答が得られるといった環境を作っていくということを進めています。

あわせて、本市と同様に ChatGPT を活用している全国の自治体の仲間を集めて、一緒に勉強会のような情報交換ができる場を設けて、それぞれの自治体が高みを目指していくという取り組みを進めています。

また秋には、横須賀を舞台とした、宿泊を伴う合宿型研修会を実施しようと考えています。

そのように、徐々に、これから第2弾として、先ごろ、市長が記者会見で発表した内容に着手しています。

以上